HOSPITALITY

気持ちで届けるもてなしのこころ。

研修医

Medical Intern

日本赤十字社 大分赤十字病院
Japanese Red Cross Society

人間を救うのは、人間だ。Together for humanity

大分赤十字病院の理念
an idea

人道・博愛の精神に基づく
心のこもった医療・看護を提供し
全ての人々の幸福を追求します

私たちの使命
a mission

救急・災害医療、がんの診療、
生活習慣病における
急性期診療において
最善の医療を提供します

病院の概要

■開設者 —— 日本赤十字社　社長 **清家 篤**
■開設年月日 — 昭和27年4月
■病床数 —— 340床
■建物 —— 地上6階
■職員数 —— 657人(令和7年4月1日現在常勤職員)※パート除く

医師　81人 ※歯科医含む　○うち臨床研修医9人
医療技術職員 90人　○薬剤師19人 ○診療放射線技師15人 ○臨床検査技師19人 ○臨床工学技士7人 ○理学・言語・作業療法士17人 ○管理栄養士8人 ○その他5人
看護師　351人
事務職員　98人
看護助手等　37人

■診療科 —— 29 診療科

救急科、一般内科、内分泌・糖尿病内科、呼吸器内科、消化器内科、肝・胆・膵内科、循環器内科、リウマチ科、腎臓内科、脳神経内科、外科、乳腺外科消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科腎・泌尿器外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、歯科、歯科口腔外科、病理診断科、形成外科

■特殊外来 —— 炎症性腸疾患外来、糖尿病クリニック、肝胆膵センター、WOC外来(ストーマ・褥瘡・尿失禁)、ボツリヌス毒素療法外来、CAPD外来、口腔腫瘍外来、緩和ケア外来、腎臓療法選択外来

■患者数の状況 (令和6年度実績)

1日平均入院患者数	病床稼働率	1日平均在院日数	平均外来患者数	紹介患者数(初診)	紹介率	救急患者数	救急車搬送台数	手術件数
283人	83.3%	9.5日	486人	7,672人	91.7%	4,589人	2,298台	2,081件

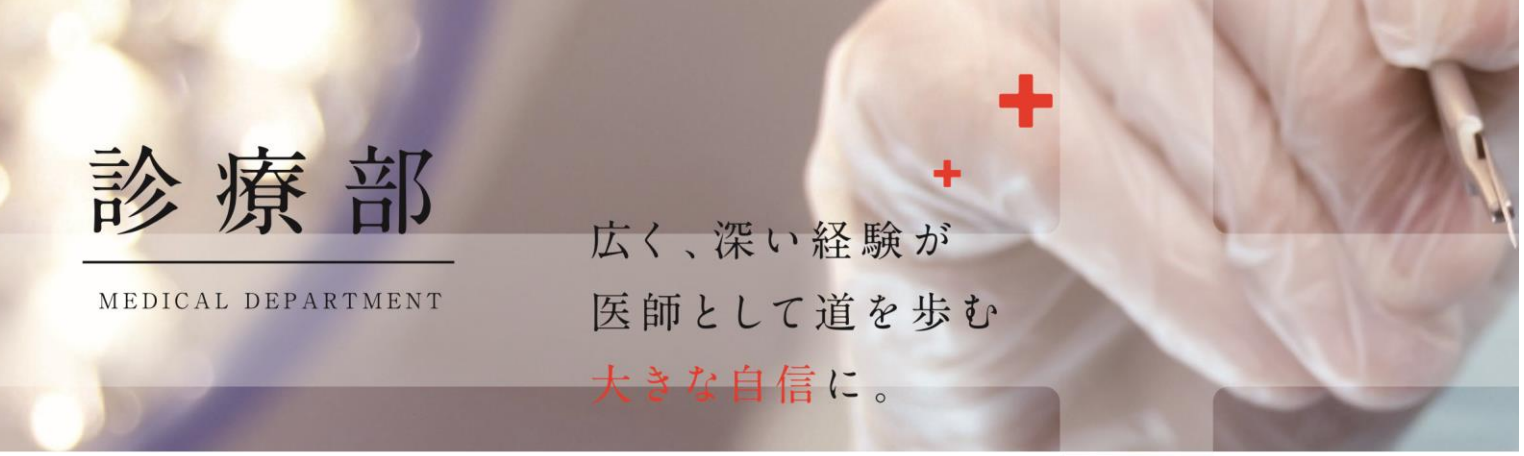
認定施設一覧

●学会認定医制度に基づく研修教育施設

日本糖尿病学会認定教育施設、日本内分泌学会連携医療施設、日本アレルギー学会アレルギー専門研修連携施設、日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本消化管学会胃腸科指導施設、日本炎症性腸疾患学会指導施設、日本肝臓学会認定施設、日本胆道学会指導施設、日本膵臓学会指導施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設、日本腎臓学会認定研修施設、新リウマチ専門研修認定教育施設、日本リウマチ学会認定教育施設、日本眼科学会専門医制度研修施設、日本外科学会外科専門医制度修練施設、日本消化器外科学会専門医修練施設、日本乳癌学会認定医・専門医制度関連施設、日本呼吸器外科学会専門医関連施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本肝胆膵外科学会高度技能医制度修練施設A、日本整形外科学会認定医制度研修施設、日本透析医学会専門医認定施設、日本泌尿器科学会泌尿器科専門医基幹教育施設、日本泌尿器内視鏡学会泌尿器科腹腔鏡技術認定研修施設、日本神経学会准教育施設、日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関、日本麻酔科学会麻酔科認定病院、日本病理学会登録施設、日本臨床細胞学会認定施設、日本口腔外科学会認定医制度専門医・指導医研修施設、日本口腔外科学会関連研修施設、日本口腔ケア学会認定施設、日本口腔腫瘍学会指定研修施設、日本静脈経腸栄養学会NST稼動施設

●その他認定施設

地域がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院、災害拠点病院(地域災害医療センター)、第二次救急指定病院、臨床研修指定病院(基幹型、協力型)、歯科臨床研修指定病院、大分県HIV診療協力医療機関、結核モデル病床設置医療機関、労災指定病院、日本医療機能評価機能認定病院(3rd G Ver.2.0)



診療部

MEDICAL DEPARTMENT

広く、深い経験が
医師として道を歩む
大きな自信に。

研修プログラム

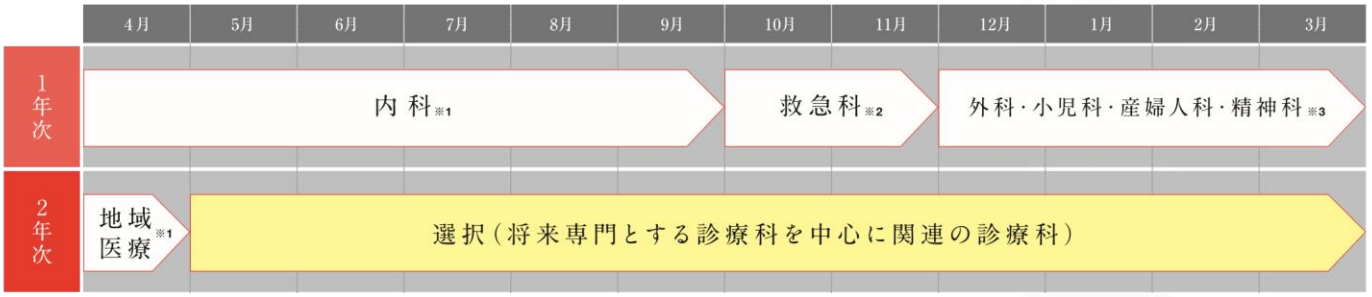
医師としてのプロフェッショナリティを養う。

初期研修の2年間においては、プライマリ・ケアと緊急医療に重点を置いた研修を行います。研修医にとって漫然とした研修にならないよう各ローテート科において到達度チェック試験を実施し、きちんと知識を整理しつつ研修を行ってもらいます。

指導医が「臨床に対する熱い思い」をマンツーマン方式で伝えられるようにカリキュラムの充実を図り「当院で研修を受けたい、当院で働きたい」という病院本来の目標に沿うようにハード・ソフト両面からの体制づくりを進めています。

研修ローテーション

1年目は内科24週、救急科8週、外科・小児科・産婦人科・精神科各4週とし、2年目は地域医療4週、残りは選択とする。但し、1年次での履修状況によっては、研修プログラムの到達目標達成のために必要な診療科を自由選択期間に履修してもらう場合があります。



※1.一般外来は内科及び地域医療との平行研修（4週）とする。
※2.救急科は8週のほかに2年間で月2回程度の救急当直を行うことで合計12週以上とみなす。
※3.小児科、産婦人科、精神科は研修協力病院・協力施設での研修となる。

●研修協力病院・協力施設
国立病院機構・別府医療センター、大分県立病院、臼杵市医師会コスモス病院、津久見市医師会立津久見中央病院、お元気でクリニックこれいし、小清水赤十字病院、大分県赤十字血液センター、大分大学医学部付属病院、大分こども病院、帆秋病院、大分記念病院

●選択した科の途中での変更は研修管理委員会の了承を経て可能とする。

Message

初期研修医は医師としての仕事を開始する場所であり、初めての臨床経験を積み重ねていく場所でもあるため大変大切な時期です。

我々の病院は 340 床の急性期対応型で、かつ専門性の高い診療科をそろえた総合病院です。指導医の数は多く、看護師や薬剤師、事務職員などのサポート体制も整っています。毎年５名の管理型、３名程度の協力型の研修医が切磋琢磨しながら成長し、巣立っていきます。「同じ釜の飯を食べた仲間」として働くにも、ほど良い人数と距離感です。

初期の研修で大切な救急医療では、ファーストタッチで診る患者さんと最初から上級医と共に処置していく患者さんをバランスよく診ていけるようになっています。新専門医制度に対しても大学病院などと連携し、充分な症例と指導医の下、初期研修から継続的に各科専攻医研修が出来るよう準備しております。

私が学生時代、ある教授が最後の講義の時に、「どこに入っても良いから、きちんと研修できるところを選びなさい。そこで、その人の医師としての一生のあり方が決まるから」と言っておられました。その言葉を心に刻んで、バランスの良い研修体制の構築に努めております。大分赤十字病院で臨床研修を始めませんか。

副院長・臨床研修プログラム責任者／石井 宏治

研修医のリアル Q&A

気になる質問に大分赤十字病院の
医師・研修医が本音で答えます！

Q1 大分赤十字病院を選んだきっかけや決め手はどんな点ですか？

●地元・大分で医師になりたいという想いがあったのと、市内中心部にある病院という点に魅力を感じた点と、忙しい仕事なので職場が街に近いとオンもオフも充実させやすいと思ったのがきっかけです。

●症例数が多いことや先生方の指導がとても丁寧だという評判を、大学時代の先輩から聞いていたからです。

●病院見学の時に研修医の先生方がイキイキと仕事をされている姿をみて、自分もこの環境で学んでみたいと思いました！

Q2 実際にこの病院を選んでよかったと思うところはどんな点ですか？

●症例数が多いのはもちろん、それに対して指導してくださる先生方の数も多いのでとにかくいろいろな疾患を勉強できるところです。

●手技をたくさん実践させてもらえるところ。内視鏡、挿管、CVなど研修医が確実に身に着けて置かなければならないことをたくさん経験できます。

●2年間の研修医期間でなんでも身につくなと思います。自分がすすみたい専門科を見極めるうえでも最適な環境だと思います。

Q3 医師・看護師の方々や、研修医同士など院内の雰囲気はどうですか？

●困ったことやわからないことなどがあっても、どの先生も丁寧に教えてくださるし、ただ方針を指導するだけでなく、ちゃんとこちらにも考えさせてくれるので、勉強になります。

●コメディカルの方々と医師・看護師の関係がいいので、わからないことを誰に質問しても丁寧に教えてもらえるところが心強いです。

●研修医専用の「研修医室」があり、先生には常識すぎて尋ねづらいことも、先輩研修医や同期の仲間に気軽に相談できる、オアシス的空間です！

Q4 仕事とプライベートのバランスはうまく取れていますか？

●学ぶことは多岐にわたるので忙しいのは確かですが、早く帰れるときはちゃんと早く帰れるし、オンとオフのバランスがとれた忙しさを送ることができています。

●趣味などの予定も立てやすいし、休日などの融通はききやすいと思います。自分の時間の使い方次第で、プライベートも充実させることは充分できますね。

Q5 目指す「医師像」は？

●「この先生なら大丈夫」と信頼される医師です。そのために今しっかり勉強して救急時や難しい症例にも対応できるようになりたいです。

●研修医期間が終わっても、今の緊張感をずっと忘れず精進していける医師になりたいです。

●患者さんや先輩・後輩医師からも「先生なら信頼できる！」って思ってもらえるような医師を目指したいです。

救急医療

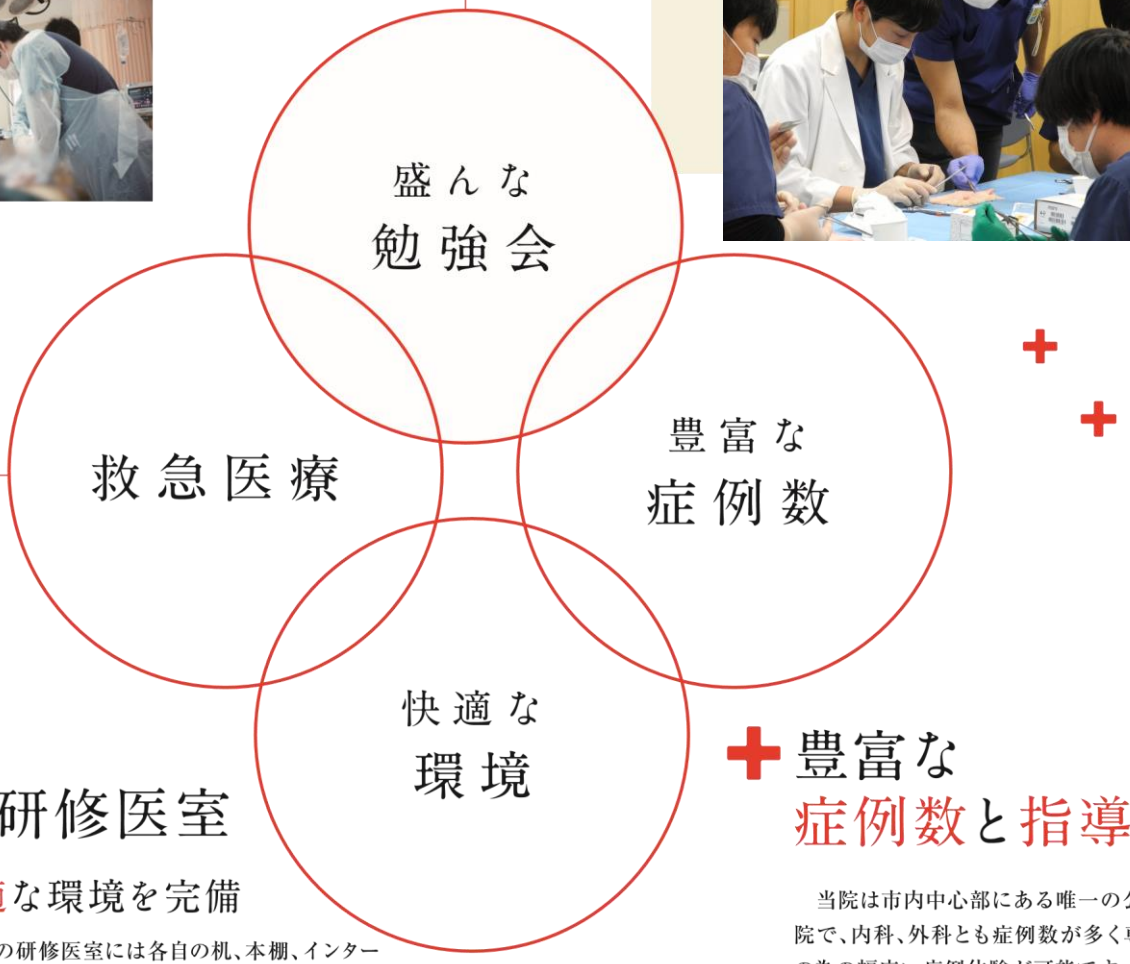
拡充と充実を目指しています。

当院は救急・災害医療、がん診療、生活習慣病を軸にした急性期病院です。救急医療については、拡充と充実を目指しています。平成21年からICUを設置し、（平成30年6月にHCUへ変更）救急部兼任スタッフの増員のほか、救急部専従医が勤務しています。救急とプライマリーケアの習得に最適な環境が整っています。

勉強会

大きく近づく医師への道

当院では勉強会を盛んに取り組んでおり、単なる講義形式ではなく研修医参加型の勉強会を行っています。研修医１年次・２年次を対象にしたミニレクチャーや当直時に困った、勉強になった症例を研修医が発表する救急症例検討会を行い、救急症例の体験を皆で共有し、臨床力向上に努めています。テーマは全研修医にアンケートを行い決定しています。



研修医室

快適な環境を完備

当院の研修医室には各自の机、本棚、インターネット環境、台所、仮眠室等が完備されています。そこで常時15名前後の1年目、2年目の研修医がまさに「同じ釜のめしを食い」、お互いの絆を深めながら研修を行っています。

豊富な症例数と指導医

当院は市内中心部にある唯一の公的病院で、内科、外科とも症例数が多く専門医の為の幅広い症例体験が可能です。

勉強会テーマ

- ■輪液について
- ■救急における画像診断
- ■腹痛の入院判断
- ■危険な心電図
- ■聴診、身体診察のコツ
- ■救急外来での神経診察
- ■骨折の読影と対応の仕方
- ■ショック時の対応
- ■消化器疾患の救急対応
- ■喘息、肺炎の初期治療
- ■縫合の仕方
- ■シーネ固定のコツ、脱臼の整復
- ■抗菌薬について
- ■胸痛の鑑別
- ■不明熱の考え方
- ■救急外来での創処置+フォローアップ
- ■ICU管理について
- ■心エコーについて

他

春の花見に始まり、スポーツ大会、医局旅行、ビールパーティ、新年会など職員の交流も盛んで、なんでも相談できること、診療科間の垣根が低くコミュニケーションが取りやすいことも大分赤十字病院の特徴です。

ワークライフバランス

老若男女すべての職員がやりがいや充実感を持ちながら働き、仕事上の責任を果たすと同時に、子育てや介護、家庭、社会貢献、自己啓発などの個人の時間を持ち、健康で豊かな生活を送れるよう支援します。

育・産休制度などの利用者が増加している中、仕事と私生活の調和を取りながら、能力を十分に発揮できるような職場の環境作りを進めています。

日本赤十字社は、厚生労働省から次世代育成支援対策推進法に基づき、職員の子育て支援に取り組む企業として2009年と2012年に認定を受け、認定マーク「くるみん」を取得しました。

研修医　処遇

基 本 給　1年次　基本給 380,000 円（諸手当込 480,000 円）
2 年次　基本給 400,000 円（諸手当込 500,000 円）

※基本給の他、時間外手当、通勤手当、当直手当、住居手当等あり

勤務時間　1週間の勤務時間38時間45分
（8時30分から17時10分まで　休憩時間55分）

休　　暇　土・日・祝日・夏期休暇・年末年始休暇　その他特別休暇制度

福利厚生

社会保険 ―― 健康保険、厚生年金、企業年金基金、雇用保険、労災保険
各種見舞金 ―― 結婚祝金、出産祝金、傷病見舞金など
生命保険 ―― グループ保険、総合医療保険、積立年金
クラブ活動 ―― 野球、テニス、バスケットボール、駅伝など

など

アクセス

大分交通バス

JR大分駅前から新川経由行きに乗車
「日赤病院入口」下車→徒歩3分

タクシー

JR大分駅前から約5分（2km）

病院見学を随時受け付けています。

希望する日時・診療科目をお知らせください。

http://www.oitasekijyuji.jp/

詳しくは公式HPをご覧ください。

大分赤十字病院　検索

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

大分赤十字病院

〒870-0033 大分県大分市千代町3丁目2番37号　TEL 097-532-6181 FAX 097-533-1207　http://www.oitasekijyuji.jp/
医療連携・患者支援センター　097-540-6167(直通)